

# 鳥取大学と連携(6)

## 研修報告

鳥取大学は「知と実践の融合」を教育・研究理念に掲げています。また、地域への知識等の提供を積極的に行っており、教育・研究・地域貢献の3つの分野で、まさに鳥取県の知の拠点となっています。学生数は4学部とそれぞれの大学院で約6,000人、教職員数は約2,000人です。大山町の皆さまには医学部附属病院がなじみ深いと思いますが、町との連携事業は医学部・工学部・農学部それから地域学部と全学部で実施しています。

さて、私は鳥取大学で研究・国際協力部 社会貢献課に勤務しています。私と同じように、日南町・琴浦町・南部町さらには鳥取県・鳥取銀行からも派遣職員がおり、日々情報交換をしながら仕事をしています。私の主な担当業務は、大山町との連携事業の調整実施、各種研究会の事務局、県機関等との連携事業等です。大山町が深く関わっている研究会活動について紹介したいと思います。



鳥取大学で派遣研修をしている金田啓介です。大学に派遣研修になり一年が経ちました。鳥取大学の紹介や大学で勤務した感想などをお知らせします。

### 「とっとり防災・危機管理研究会」

(会長：大学院工学研究科 松原雄平教授)

この研究会は、大学教員だけではなく鳥取県危機管理局や市町村等が参加する研究会で、津波、地震、洪水等あらゆる災害に関する研究をし、その成果を地域の防災・危機管理に役立てるために設けられた研究会です。年に4回定例研究会を開催し、各分野の情報共有を図っています。また、平成24年度は定例研究会以外に、東日本大震災後の復興視察や研究会活動を広く周知する『防災フォーラム』を実施しました。

宮城県への復興視察では、被災地の現在の状況を知るとともに名取市の復興まちづくり計画について学ぶことができました。また、防災フォーラムでは大山町の津波対策の取り組みについて発表する機会をいただきました。平成25年度も「とっとり防災・危機管理研究会」と連携し、津波対策等を実施します。

### 「鳥取大学持続的過疎社会形成研究プロジェクト」

(研究代表：大学院工学研究科 谷本圭志教授)

このプロジェクトは全学横断の研究会です。大山町でもまちづくり・過疎化・少子高齢化等の問題は重要度の高い行政課題だと考えています。町では『まちづくり地区会議』を各地区に設置し地域の活性化を図っています。

広報だいせん4月号3ページで赤井久宣参事が、大山町での勤務の感想を述べられていましたが、赤井参事が感じられた課題について研究しているのがまさしく本研究会です。「避けることのできない過疎化、少子高齢化等を受け入れ、今ある地域をどのように継続させていくことができるか」を研究しています。平成24年には、これまでの研究成果を「鳥取発！過疎地域の戦略」と題して出版したところ、首都圏でも注目されています。

大学では公式な場、非公式な場を問わず教員の方と話をする機会が多々あります。鳥取大学の教員の多くは、地域のために何か貢献したいと考えておられます。教員との交流の中で、大山町の活性化につながるようなことがあれば、連携して事業化していきたいと考えています。